

## 課題② 気付きの質を高める学習活動

### 伝えたいな 大好きなアサガオ

#### 第1学年 「げんきにそだて わたしのあさがお」の実践を通して

板野郡藍住町藍住西小学校 教諭 溝部 理緒

#### 1 はじめに

本学級の児童は素直で明るく、いろいろなことに関心をもち意欲的に活動に取り組む。また、教室に飾ってある花を見て「きれいだなあ」と話したり、運動場のシロツメクサでかんむりや花束を作ったりする等、身近な自然や植物に興味を示す児童も多い。しかし、自分自身で植物を育てた経験のある児童は少なく、植物の育ち方や育つ環境にまで考えを広げている児童は少ない。

本単元「げんきにそだて わたしのあさがお」では、アサガオを育てる活動を通して、植物の生命や、植物を取り巻く環境に目を向けられる児童を育てたいと考えた。また、長期にわたる栽培活動を通じて、植物を育てる喜びや達成感を味わわせたい。さらに、栽培や観察、表現活動等を行う中で、仲間と学び合える児童を育てたい。

植物の特徴や成長の様子、育つ環境に関心をもつために、対象物と毎日関わることで生活の一部となるまで定着させたり、対象物の立場に立って考えるという視点で観察したりすることで、対象を「自分ごと」として捉えられるようにしたい。

また、児童の思いや願いを生かした多様な表現活動を行ったり、気付いたことを友達と互いに伝え合ったりすることで、学びをさらに深め、広げたいと考え、本実践を行った。

#### 2 研究の内容

##### (1) 「自分ごと」にするための教師の支援

- ①対象に繰り返し関わるための工夫
- ②対象の立場に立って考えるための工夫

##### (2) 伝え合い高め合う学習活動

- ①気付きの共有化
- ②思いや願いを大切にしたい表現活動

#### 3 研究の実際

##### (1) 「自分ごと」にするための教師の支援

###### ①対象に繰り返し関わるための工夫

###### ア アサガオの配置

1年生の昇降口横という身近な場所に鉢を置くことで、毎朝児童が自然に観察したり、自ら進んで世話をしたりすることができた。教職員や迎えにきた家族に「これ、僕の（アサガオ）」「今日、初めて咲いた」等と紹介する姿が見られた。

###### イ 朝の会の活用

毎日朝の会で児童が発見したアサガオの様子を発表し、変化や気付きを共有した。毎日その時間を設けることで、アサガオをより好きになり、関心を強くもつようになった。

###### ウ 観察記録の工夫

成長過程を画用紙に付け足して描き込んでいく形で記録した。双葉から始まり、紙を足したり、絵も描き足したりして上へ上へと伸びていく様子を一枚にまとめることで、成長の過程がよく分かり、細部にまで目を向けて観察しようとする意識が高まった。また、アサガオの継続的な観察を目に見える形で表現したことで愛着が深まり、心を込めて世話をすることができた。



## ②対象の立場に立って考えるための工夫

「気持ちカード」「アサガオかんむり」「もしもし電話」を使って、アサガオの立場になって考える活動を取り入れた。アサガオの視点で考えることで、アサガオの気持ちをより自分ごととして捉えられるようになってきた。そして、自分の関わり方がアサガオの成長に大きく影響することを感じ、適度な水やりを欠かさず行う等、愛情と責任感をもって世話をするようになった。また、頑張っている世話をしている自分の姿にも客観的に気付くことができた。

## (2) 伝え合い高め合う学習活動

### ①気付きの共有化

#### ア ふりかえりの時間の充実

生活科の時間に、気付いたことを発表したり、友だちと交流したりする等の学びを共有する時間を多く設定した。共有することで、自分が発見できなかったことや、目を向けられていなかった新たな視点に気付くことができ、次の日の観察からは、それを取り入れて観察するようになった。

#### イ お助けタイム

活動の中間報告を生活科の時間中に取り入れ、その時々で困っていることを共有して、他の班からアドバイスをもらう「お助けタイム」を設けた。他のグループが実践している内容を知り、解決の糸口を見つけることができた。

### ②思いや願いを大切にしたい表現活動

4月からアサガオを育てる活動を通して、児童は自分が世話をしているアサガオについて誰かに知らせたいという思いをもつようになった。そこで、自分たちがしてもらったように幼稚園児に伝えることにした。コロナ禍であるという現状の中、映像データで伝える方法をとった。

#### ア 相手意識をもった活動

伝えたい内容ごとにグループを作り、幼稚園児にとって分かりやすく、興味をもってもらえるようにするにはどうしたら良いのかを考えた。同じ思いをもった児童でグループを作ったことで活動中に活発な意見交換が行われた。

#### イ ICT 機器の活用

それぞれの活動を記録して見返すことで、自分たちの改善点を客観的に見つけることができた。また、前回の活動の様子と比べることにより良くなっている自分を実感することもできた。良い活動を取り上げて紹介することで他の児童の意欲も高まり、思いを伝え合う表現活動をより活性化することができた。

## 4 研究の成果と今後の課題

アサガオを「自分ごと」にするために教師が支援することで、「私のアサガオが今日は雨でお腹いっぱいって言っているから、水やりはしない」等、アサガオの変化や環境の違いに児童自ら気付き、栽培に主体的に取り組もうとする姿勢が見られた。また、「次は近所のおうちに咲いているようなヒマワリを育てたいな」と前向きな気持ちをもったり、採取した種を大事そうに袋に入れ、「来年はもっといっぱい花を咲かせるぞ」と意気込んだりする児童も多数出てきて、植物を育てることへの関心・意欲が高まっていると感じられた。また、伝え合い高め合う活動を通して、自分の意見が認められる喜びや相手の考えを聞いて新しい考えに気付く児童がたくさん見られ、気付きの質も高まり、また友だちの良さも感じることもできた。

課題としては、児童を見取る難しさである。活動中、一人一人の気付きを拾うのは難しく、一部の児童の気付きしか見取ることができなかった。また、文で書いたり絵で描いたりする活動が難しい児童への配慮や指導の工夫が十分にできなかったことも課題である。児童の実態をよく把握し、一人一人の児童に応じた指導・支援を行っていけるよう、授業の工夫や改善を図っていきたい。